15 多摩丘陵産 Tanypodinae

(Diptera: Chironomidae)

小林 貞 (神奈川大学付属高校)

Tanypodinae from the Tama Hills, Kawasaki, Japan.

Tadashi Kobayashi (Kanagawa Univ. High School)

1988年10月から、昨年秋まで、多摩丘陵にある生田緑地で、ライトトラップにより、週1回、ユスリカ成虫を採集した。その結果、100数十種を同定したが、未同定や、再検査の必要な標本も多い。今回とりあえず、Tanypodinae について、詳細な再検査を行ったところ、同亜科6族のうち、Tribe Clino-tanypodini と Tribe Anatopynini を除く4族14種が確認された。

徳永は41種(うち、Fittkau により、そのまま、有効とされているもの8種、nomina dubia とされたもの6種など)、佐々(1995)は徳永の記載を含めて59種をまとめている。これらの記載と多摩丘陵産標本との関連を中心に、とくに、Macropelopia goetghebuveri とされてきた種は、new combination として、Psectrotanypus tokunagai とすべきであることなどを発表する。

17 横浜市内で採集されたタカラダニ Sp. に対する数種薬剤の効力

○皆川恵子・橋本知幸・水谷澄(日環センター)

Acaricidal efficacy of four chemicals against Erythraeidae Sp.

Minagawa K., Hashimoto T. and Mizutani K.

5から6月にかけて人家周辺で多発する赤いダニは、その色などから不快感をもたらすものとして相談件数が増えているが、このダニの薬剤に対する効力はほとんど知られていない。そこで演者らは、横浜市内で多量に採集したタカラダニ Sp. を用いて残渣接触法(クリップ法)によってその効力を検討した。その結果、このダニはIBTAに対して0.1g/m²の薬量で100%、プロボクスル、フェニトロチオンには90%以上の高い致死効力を示し、その効力はプロボクスルの方が高かった。しかし、ベルメトリンに対しては1g/m²の薬量でも38.4%の致死率にとどまり、標準薬量による接触致死効力は期待できなかった。

16 住宅リフォームによるダニアレルギーの除去効果の検討(2)

○元木貢(アベックス産業)・安枝浩(国立相模原病院)・伊藤弘文(アベックス産業)

Effect of the substitution of interior materials on the reduction of the house mite allergen.

Motoki M., Yasueda H and Itoh H.

気管支喘息の原因として、ヒョウヒダニの生体、死骸、糞等が関わっている。これらダニ起因のアレルゲンを減少させる目的で、住宅のリフォームを行い、アレルゲン量の推移からその効果を調べた。対象家屋は木造2階建ての1階で、8畳洋間ジュータン床はコルク床に、6畳和室畳はコルク畳に、4.5畳和室畳はコルク床に変更した。4.5畳和室にはベットを入れ、布団は喘息患者用に開発され、出荷時に洗浄された製品で、RAST抑制試験によりDer.p量が100ng/mL以下であると確認されたものに変更した。変更後のDer.p量はコルク床で20分の1以下に、敷き布団では400分の1以下に減少したが、コルク畳では減少幅は少なかった。

18 ヒョウヒダニ2種の各発育ステージにおける薬剤感受性の差異

○橋本知幸・皆川恵子(日環センター)

Differences in the susceptibility in each developmental stage of Dermatophagoides spp. against three chemicals.

Hashimoto T. and Minagawa K.

コナヒョウヒダニ(Df)およびヤケヒョウヒダニ(Dp)の幼虫、若虫、♂、♀の各発育ステージにおける薬剤感受性をクリップ法により評価した。供試薬剤はフェニトロチオン、IBTA、安息香酸ベンジルとし、各薬剤で3~5段階の薬量段階を設けた。その結果、全ての薬剤で両種とも、幼虫において最も高い薬剤感受性が認められたが、若虫と成虫、ならびに雌雄の間では、薬剤感受性に大きな差は認められなかった。フェニトロチオンとIBTAに対してはDfのほうがわずかに感受性の高い傾向があった。安息香酸ベンジルとIBTAは0.1g/m²の薬量でいずれのステージも100%の死亡率が得られたが、フェニトロチオンでは1g/m²で100%の死亡率が得られたのは、Df、Dp各幼虫とDf♂のみであった。